

ぐんまこどもの国児童会館

にこっと通信

nicotto tsu-sin!



にこっとちゃん

2004.4.15

第5号

発行／
ぐんまこどもの国児童会館



プラネタリウム春番組

プラネタリウム新番組

ピーターパンvsフック船長 ～星空の対決～



投影期間

6月6日(日)まで

平日 14:30～

土日祝日 13:00～、15:30～

※都合により上映時間等変更になる場合がありますので
お問い合わせください。

「ピーターパン」の世界観に星空の話題を盛り込んだ
プラネタリウムオリジナルストーリーです。



児童福祉週間企画

児童福祉週間にともない行う
イベントです。

ホールいっぱいの「でか鯉」の
中に、手作り楽器の体験コーナー
を設置、自由に音が楽しめます。
また、工作コーナーでは簡単な
楽器をつくります。

★5月1日から5日には、自分で
作った楽器で参加するリズム
あそび「ウキウキカーニバル」
を行います。

でか鯉リズムハウス

～みんな音もだち～

開催日 4月24日(土)～5月9日(日)
時間 9:30～17:00



こども劇場「夢適ヒーロー大集合!!」

地域で活動しているアクションチームによる、楽しいオリジナルアトラク
ションです。ゆうまちゃんやにこっとちゃんも登場します。

開催日 5月4日(火)

時間 11:00～12:00
12:00～13:00
14:00～15:00



お知らせ ★4月より、毎月末日も開館します。※ただし月曜日(休館日)はのぞく
★4月13日(火)から、全天周映画は休止し、「こども映画館」等を行う予定です。

休館日

4月… 5日(月)・12日(月)・19日(月)・26日(月)
5月… 6日(木)・10日(月)・17日(月)・24日(月)・31日(月)
6月… 7日(月)・8日(火)・9日(水)・14日(月)・21日(月)
28日(月)



ぐんまこどもの国児童会館

〒373-0054 群馬県太田市長手町480
TEL.0276(25)0055 FAX.0276(25)0059
URL <http://www.sunfield.ne.jp/~kodomo01/>

児童健全育成講演会 「これからの子育て」

たねき
—毛利子来 先生—

2月28日に小児科医毛利子来先生をお迎えし、児童健全育成講演会を開催しました。毛利先生は「たねき先生」の愛称で親しまれ、子どもの診療に当たる傍ら、雑誌の編集委員や講演会等で御活躍中です。今回は豊富な経験に基づき「これからの子育て」について御講演いただきました。(以下は講演会の抜粋です)

1 「ばばっく、汚く育てよう」

1950年代は、子どもは汚かった。鼻はたらししているし、手はべとべとしていたが、高度経済成長と共に1960年代になると、やたらきれいになった。と思っていたらアレルギーが増え、精神的にも弱くなった。抗菌・除菌グッズがはやり、予防接種で病気を予防し、病気になると抗生物質でやっつける。バイキンを遠ざけて遠ざけて、バイキンに弱くなり、アレルギーが増えてきた。抗生物質がバイキンをやっつけてくれるから免疫ができない。だからまたその病気にかかる。

子どもは熱をだして早く治る。熱は悪いことではない。元気な証拠で良いこと。2～3日熱が出て治ると免疫がしっかりできる。次に同じ病気にはかからない。これからは「ばばっく、汚く育てよう」

2 「悪いことをさせよう」

日本の教育は「悪」教えない。「うそ」「人を殺す」「盗む」「隠し事」は悪いが、それだけでは成り立たないこともある。うそをつかない人はいないし、人を救ううそもある。「悪もあり」ということを隠さずにちゃんと教えて、悪いことをしたら現実になんてなるかということを教えるのが良いのでは。

人間の至らないところを認める・隠さない。そこから人間を知り、人間の真実を教えることができるのではないかな。



3 「勝手に生きる」

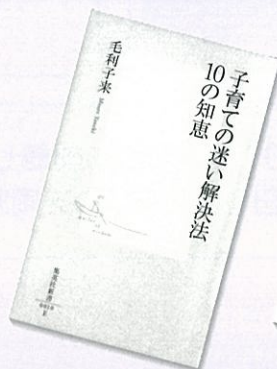
自分の性分で生きることを大切にする。“個性を認める”“個性を伸ばす教育”が大事といってるが、実際はそうではない。“レッテルをはる”“例外を認めない”ことが多い。集団主義は高度経済成長期では効率が良かったが、同じ行動を一律にするなんて異常なこと。

一人一人が自分の流儀で生きていける力を育てることが大切。それぞれの持ち味で、多様な生活が認められる社会が望ましい。

4 「家族や組織のたがをゆるめよう」

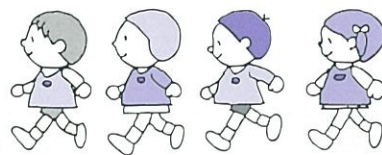
地域でいろいろな人と接するように育てよう。地域の人と顔見知りになると事件や事故の予防にもなる。地域の協力や教育力を掘り起こし、協同の育児をしていく。子育ては親だけでは無理。町や村の営みの中でいい育児ができるのです。

毛利先生は数々の子育てに関する著書を出版されています。興味のある方は読んでみてはいかがでしょうか。子育てのヒントが見つかるかもしれません。また、ホームページ「たねき先生のお部屋」<http://www.tanuki.gr.jp/>も参考にしてみてください。



自信は元気のみなもと

—自信を育てる—



<自信とは何か>

自信とは、「自己肯定的なセルフ・イメージと、それに伴う肯定的な感情」ということができるでしょう。それは、自分のどの側面のものかによって二種類あります。一つは「自分の能力についての自信」で、「自分は～できる」というものです。もう一つは「自分の特性(個性)についての自信」で、「自分は～な人間である」というものです。自信は、自己を積極的な行動へと導きます。

<乳幼児期の自信>

—自信の基礎・万能感—

生まれてから二歳児までの乳児期に大切なことは、子どもが養育者(多くは母親)との間に「愛着」を形成することです。愛着とは心の絆です。心の絆は、①子どもが母親に対して、自分を十分愛してくれる存在であると思うこと(他者信頼)、②子どもが自分を、母親から十分愛される存在であると思うこと、の二つの要素から成立しています。ここでは、子どもの自信という観点から、②の自分についての捉え方を採り上げます。

自分を母親から愛される存在として捉えることは、自分の価値を認めること(自己価値)であり、自己を肯定すること(自己肯定)であり、最終的には自分に自信を持つことです。

人生の最初期に出会った母親が、もし、自分を愛してくれなかったら、子どもは自分を価値のないダメな人間と思ってしまいます。

つぎの幼児期(小学校入学前まで)に重要な課題は「基本的な生活習慣の自立」です。ひとりで食べる、ひとりでオシッコやウンチができる、ひとりで衣服の着脱ができる、などを身につけることです。愛する母親の要求と援助で、幼児は一生懸命に頑張っており、三歳頃には大かたの基本的な生活習慣が身につきます。基本的な生活習慣の自立は、幼児に「自分もひとりでできるんだ!」という大きな自信をもたらします。

また、人間は「知的好奇心」が旺盛です。生後二か月の子でも、ベットの周囲にある玩具に興味を示します。一歳になり二足歩行ができるようになると、活動範囲は広がり、盛んに探索行動を行って、外界に自分の力が行使できると大いに自信を感じます。この時期に大切なことは、子どもを自由に遊ばせることです。母親を安全基地にして、いろいろなことに挑戦し、自信(万能感)を獲得していくのです。この万能感は果敢に挑戦するエネルギー源ともなります。幼児の自信には、実際にはできないことも「何でもできる」という思い込みもありますが、それは自分の自信を相対的に評価できるようになるまで大事にしてあげたいものです。

<児童期の自信>

—等身大の自信・個性—

児童期になると、子どもは他者(多くは仲間)との比較を盛んに行い、自分を相対的に位置づけられるようになります。幼児期の「万能感」はしだいに色あせ、「等身大の自分」が形成されていきます。しかし、常に自分より優れた他者と比べ高過ぎる目標を設定して「もっと頑張らないと!」との激励は、逆に子どもの自信を急激に低下させてしまいます。だから、適切な目標を持たせることが大切です。

また、児童期には、自分の中のいろいろな自信(学習・運動・仲間関係・自分全体)を比べ、「どの自信が高いのか」を把握することが大切な課題です。自信の「個人内評価」です。優れている点(自信のある面)に注目して、それを伸ばすことができれば、それはその人の「個性」になります。

乳幼児期には、母親との愛着や身のまわりの家族や大人たちの愛情や受容によって、子どもの自己肯定を育むことができます。そして、児童期になると、対人関係における自信は、仲間から認められることによってもたらされます。仲間から認められて自分の存在に自信が持てれば、児童期はとても楽しいものとして過ごすことができます。

<本物の自信>

—自己主導型の自信形成—

児童期後期(小学校高学年)になると、他者からほめられなくても自分で成功経験をほめることができるようになります。このような現象を「自己強化」といいます。失敗しても自分をなぐさめ勇気づけることもできます。他者依存型から自己主導型の自信形成へと変化するのが児童期です。

子どもが自分で目標を決め、その目標の達成に向けて努力する、そしてその成果を自分で評価し、さらにつぎの目標を決めて努力する、という循環的な流れが大切です。

このように、主体的・自律的に行動してこそ、その結果としての成果や本物の自信を手に入れることができるのです。そして、本物の自信は主体的・自律的な行動の根源ともなるのです。

■参考文献

桜井茂男「自信はどう育つのか」(『児童心理』2002年5月号所収)

手島茂樹「自信づくりのプロセス」(『児童心理』1998年2月号所収)ほか。



移動児童館のおしらせ



ぐんまこどもの国児童会館では、県内各地域に出かけ、地域の子ども達と一緒に遊ぶ移動児童館事業を実施しています。

利用案内は下記の通りです。

- 利用対象
① 子供育成会 ② 母親クラブ ③ 公民館 ④ 児童館等の児童健全育成を目的とした団体(学校、幼稚園、保育園は除く)
- 利用期間
原則として4月1日から翌年3月31日まで(児童会館の休館日、特別事業期間中は除く)
- 利用時間
午前10時30分から午後4時までの間の1～2時間程度
- 実施プログラム
造形遊び、集団遊び、科学遊び、鑑賞事業
- 申込方法
希望月の3ヶ月前から受け付けます
- 利用料金
無料(ただし、プログラム内容により材料費をいただく場合があります)
- 問い合わせ・申し込み先
ぐんまこどもの国児童会館へお電話下さい

紹介します

～子育て支援センター～太田市

子育て支援センターは保育園と併設されていて、子育て家庭を支援する育児相談や子育てサークル等の育成・支援、地域の保育や子育てに関する情報提供などを行っています。

子ども同志の交流や親同志の情報交換ができる他、保育園の様子も見る事ができるので、お子さんを保育園や幼稚園に預ける事で悩んでいる方々の参考にもなっているようです。

太田市の子育て支援センターは市内全域に偏りがないよう、東・西・南・北・中央の5カ所にあります。(地図参照)また、それぞれ活動内容や日程などが異なりますので、詳細については各実施保育園にお問い合わせください。

利用できるのは、市内在住の方で、保育園幼稚園に通っていないお子さんをお持ちの方です。またセンターのご利用の際は簡単な登録などがありますので、あわせてお問い合わせください。

群馬県内の子育て支援センターは現在19市町村に52カ所設置されています。

お問い合わせは県庁青少年子ども課 027-226-2626 までどうぞ。

また、下記の県庁ホームページの「保育施設」の項目から、市町村の子育て支援センターの連絡先をごらんいただけます。

<http://www.pref.gunma.jp/c/06/kosodate/html/index.htm>

地図	子育て支援センター	おもな活動内容
①	鶴生田保育園(はとぼっぼ) 鶴生田町401-1 0276-25-5947	a・b・c・d e ふれあい活動
②	宝泉保育園(はぐみ) 宝町393 0276-31-3160	a・b・c・d e 世代間交流 e シルバーサークル
③	太田市立浜町保育園 浜町25-5 0276-45-2809	a・b・c・d e 園庭解放
④	こまどり保育園 石原町1038 0276-45-3466	a・b・c e 障害をもつ子どもと、その親たちへの支援・卒園児と地域の子ども集団育成のための、小学生たちへの支援
⑤	末広保育園「ワクワクキッズ」 末広町543-5 0276-38-1830	a・b・c・d

a 育児相談 b 育児講座 c 子育てサークル運営・支援 d 情報提供 e その他



友の会休止のお知らせ

開館当初から活動してきた「友の会」ですが、この4月から休止することになりました。長い間、ありがとうございました。

「友の会」は休止しますが、新たに「ぐんまこどもの国児童会館インフォメーション送付サービス」を開始しますので、ぜひご利用ください。

■ 送付期間: 平成17年3月まで

■ 送付内容: ぐんまこどもの国児童会館インフォメーション
(毎月1日発行・A3版1枚)

■ 料 金: 1ヶ月あたり80円×3ヶ月までの月数
(例) 4月申し込みの場合・80円×12ヶ月=960円
5月申し込みの場合・80円×11ヶ月=880円

■ 申込方法: ぐんまこどもの国児童会館に設置の申込み用紙でお申し込みください。

詳しくは、児童会館総務推進グループまでお問い合わせください。

☎0276-25-0055



第17回全国健康福祉祭群馬大会
ねんりんピックぐんま
平成16年10月16日(土)～19日(火)